

E-11 女子短大生にみる将来の住居に示す関心点

大阪市大家政 北浦かほる

○中野 迪代

1. 現在盛んにいわれている“マイホーム主義”のイメージを知る手がかりとして女子短大生183名を対象に理想的な将来の住居像を具体的にかかせて“住居”のどの様な部分に興味を持っているかを検討してみた。

2. 住居はその容器である“住宅”とその中で行なわれる住生活とに分けて考えられる。住宅は環境・所有形態・規模・経済等の社会的条件と構造・住戸形態・意匠様式・設備・装備・庭・カーポートの有無等の物質的条件に分け、住生活については家族構成・起居様式・欲しい室名・職業等の項目に分けて夫々どのような点に大きく関心を持っているかを検討してみた。

3. 調査の結果、住宅自体よりその中で行なわれる住生活に対する関心が非常に強く75%が具体的な室をイメージしながらある住生活像を描いている。又起居様式に対する関心も強く57.4%もがそれについて述べている、住宅に対する関心は住戸形態に関するものが44.8%と最も強く次いで庭の有無42.6%、規模30.1%、階数25.1%。装備24.1%、環境・意匠様式22.4%と続いており、構造・設備・カーポートの有無についての関心は予想外に低かった。

ここでは興味の対象が住居のこういった面に向けられているかについてのみチェックしたが、その内容を詳細に検討することによって各個人の住居観を求めその傾向を探っていきたいと思う。